

2021年度

研究調査プロジェクト報告

ここでは、(公財)国際交通安全学会 (IATSS) が2021年度に実施した研究調査プロジェクトのうち、10本について概要を報告します。

— 凡例 —

プロジェクト番号

プロジェクト名

プロジェクトの概要

◎:プロジェクトリーダー

*:特別研究員

** :共同研究者、研究協力者、オブザーバー

(所属は当時)

自主研究プロジェクト: 2103B

ウォーカーブル・シティ評価手法の開発

日本では急激な人口減少、超高齢化を迎え、都市のコンパクト化が進められている。しかし、ただ単に都市をコンパクトにすれば良いわけではなく、都市の活力を維持し、魅力を向上させるために「居心地が良く歩きたくなるまちなか」から始まる都市再生が、2019年に国土交通省に設置された懇談会で提唱され、2020年度から「まちなかウォーカーブル推進プログラム」がスタートすることになった。既に、全国で323 (2022年1月末現在) の都市がウォーカーブル推進都市として名乗りを上げている。本研究は、ウォーカーブルな都市 (ウォーカーブル・シティ) を横断的に評価する手法を明らかにすることを目的とする。欧米の先進事例を参考にしつつ、日本の都市に適した評価手法を目指す。

【2021年度の成果】

- 国土交通省 (オブザーバーとして参加) では、ウォーカービリティ指標の作成と試行が進んでいるため、連携して研究を進めていくことになった。
- ウォーカーブル指標は、社会・経済・環境の持続可能性、健康、居住性の3つの視点から整理することができた。
- オーストリア・ウィーン市において、ウォーカーブルに関わる指標が住居の取引価格に及ぼす影響を明らかにした。

-
- ◎一ノ瀬友博 (IATSS 会員/慶應義塾大学)
 - 岩貞るみこ (IATSS 会員/モータージャーナリスト)
 - 紀伊雅教 (IATSS 会員/香川大学)
 - 土井健司 (IATSS 会員/大阪大学)
 - 松橋啓介 (IATSS 会員/国立環境研究所)
 - 馬奈木俊介 (IATSS 会員/九州大学)
 - 森本章倫 (IATSS 会員/早稲田大学)
 - 岩崎 寛* (千葉大学)
 - 長田哲平* (宇都宮大学)
 - 小嶋 文* (埼玉大学)
 - 柴山多佳児* (Vienna University of Technology)
 - 田島夏与* (立教大学)
 - 鳥海 梓* (東京大学)
 - 村上暁信* (筑波大学)
 - 宮川武広** (国土交通省)
 - 荒金恵太** (国土交通省)

GRATS (Global Research Alliance on Traffic and Safety)

本プロジェクトは、2016年から3年間行われた創50戦略プロジェクトの発展的な調査研究活動として、2019年から着手された。主たる目標は、交通安全観点で国際比較調査を実施するとともに、国内外の研究者や研究機関・国際機関と連携することにより、先進的な交通政策を討議・提案するための共通のプラットフォームを構築することである。組織構成は、全体会議のほか、国際的な比較研究を中心とした、研究部会と各国との情報交流を目的とした交流部会がある。

研究部会では、各国の交通安全意識調査や統計データを基に、各国の交通死亡事故率と特性を分析することにより、事故発生の因果構造モデルを作成し、因果構造の特定を行い、3Eとドライバーの行動意図を併せて「交通安全文化」と捉えられること

を明示した。

交流部会では、交通安全政策における国や国際機関の機能や活動実績を分類するとともに、世界の交通安全の共通ビジョンと各国の具体的政策との関係の概念的モデルを提示した。同時に、国際協力機構(JICA; Japan International Cooperation Agency)等の内外の機関とともに、今後連携して活動すべき課題の検討を行い、共創的關係を構築した。また、全体会議において、両部会の成果を基に、今後の活動方針について討議を行った。

なお、上記成果に基づいて、GRATS活動の報告と当学会の活動方針に関する討議が、国際フォーラム GIFTSのシンポジウム/ワークショップ(2021年11月18日、19日)の場で行われた。

【全体会議】

◎森本章倫	(IATSS 会員/早稲田大学)
中村英樹	(IATSS 会員/名古屋大学)
北村友人	(IATSS 会員/東京大学)
鈴木弘司	(IATSS 会員/名古屋工業大学)
土井健司	(IATSS 会員/大阪大学)
中村文彦	(IATSS 会員/東京大学)
吉田長裕	(IATSS 会員/大阪市立大学)
岸井隆幸*	(IATSS 理事/日本大学)
井上勇一*	(IATSS 顧問)
橋本鋼太郎*	(IATSS 顧問/(一財)首都高速道路技術センター)
福田 敦*	(IATSS 顧問/日本大学)
長田哲平*	(宇都宮大学)
康 楠*	(Nanjing Tech University)
北野尚宏*	(早稲田大学)
小泉幸弘*	((独)国際協力機構)
小園智寛*	((独)国際協力機構)
小柳桂泉*	((独)国際協力機構)
坂野成俊*	((株)富士通総研)
塩見康博*	(立命館大学)
鈴木一史*	(群馬工業高等専門学校)
鳥海 梓*	(東京大学)
濱田 禎*	(国土交通省)
米谷祐輝*	(内閣府)
吉田 綾**	((独)国際協力機構)

【交流部会】

森本章倫	(部会長/IATSS 会員/早稲田大学)
中村文彦	(IATSS 会員/東京大学)
吉田長裕	(IATSS 会員/大阪市立大学)
長田哲平*	(宇都宮大学)
北野尚宏*	(早稲田大学)
小泉幸弘*	((独)国際協力機構)
小園智寛*	((独)国際協力機構)
小柳桂泉*	((独)国際協力機構)
坂野成俊*	((株)富士通総研)
米谷祐輝*	(内閣府)
王 愛琳**	(早稲田大学)
吉田 綾**	((独)国際協力機構)

【研究部会】

中村英樹	(部会長/IATSS 会員/名古屋大学)
鈴木弘司	(IATSS 会員/名古屋工業大学)
井上勇一*	(IATSS 顧問)
橋本鋼太郎*	(IATSS 顧問/(一財)首都高速道路技術センター)
康 楠*	(Nanjing Tech University)
塩見康博*	(立命館大学)
鈴木一史*	(群馬工業高等専門学校)
鳥海 梓*	(東京大学)
Ghassan Abu-Lebdeh*	(American University of Sharjah)
Mohamed Shawky Ahmed*	(Ain Shams University)
Wael Alhajyaseen*	(Qatar University)
Nicola Christie*	(University College London)
Lorenzo Mussone*	(Politecnico di Milano)
Keshuang Tang*	(Tongji University)
Tina Gehlert*	(German Insurers Accidents Research)
Babak Mehran*	(Manitoba University)
Wouter Van den Berghe*	(Vias institute)
Axel Wolfermann*	(Hochschule Darmstadt)

広場・歩行空間における群衆行動の観測とその制御による安全性向上に関する研究

都市部の道路では、歩行者天国を伴う屋外イベントや、地震による公共交通機関の運行停止などにより、突然、多くの歩行者が路上に出てくることがある。このような歩行者は群衆と呼ばれ、歩行者の群衆状態は、事故や犯罪の原因になることが知られている。群衆状態の危険の発生を防ぐには、歩行者空間を確保して空間の使い方をあらかじめ想定することが必要だが、空間制御や歩行者の流れを管理していないイベントでは、混雑の発生を予測することが困難な場合がある。

群衆には定義と構成要素があるが、それらのうち、群衆の心理状態と人同士の相互作用を除いた構成要素を研究対象とした。群衆状態の事例の一つとして、渋谷ハロウィンイベントを取り上げた。このイベントは、主催者がいない自然発生的なもので、広場や歩行空間において歩行者の流れをコントロールすることが、いかに難しいかを物語っている。混雑状況は、歩行者のスペースが少ない日本の大型ターミナル駅周辺の商業エリアでよくみられるが、自動車やバス・タクシーの通行する公共空間としての道路はあるが、このような予見できないイベントのために、駅への道路アクセスは完全に止めるわけにはいかない現状にある。また、歩行者のためのスペースが十分に確保されておらず、警備にも莫大なコストがかかることから、このようなイベントの計画的開催についても困難なことが多い。

そこで、本研究では、3年をかけて以下の内容を

実施することとした。初年度は、大きな鉄道駅の交通結節点における歩行者の混雑と交通事故や犯罪リスクの関係を調査するための研究レビューを行った。また、渋谷ハロウィンのようないくつかのイベントを対象に、モバイルプローブデータ（MPD）を用いて、イベント時の混雑状況を調査した。このデータは、一般的なスマートフォンのアプリケーションから収集したデータを提供している携帯電話会社から入手したものである。これは、街路ごとの歩行者の流れの全体像を把握し、適切な制御方法や介入機会を検討できる可能性があるため、このプロジェクトのメインテーマとなっている。

2年目には、英国マンチェスター大学において、犯罪と群衆に関するハッカソンイベントを開催した。また、音を用いた群衆・歩行者流動制御、デジタル画像からの物体検出による監視手法、群衆追跡手法などの最新の研究内容を研究メンバーと共有した。

3年目には、MPDを用いて、中距離レベルの歩行者行動を分析した。また、群衆の状況をより深く分析するために、MPDとAI画像解析手法を組み合わせた歩行者流動の可視化を試みた。加えて、歩行者のための空間デザインの事例に関するワークショップを開催し、フランス・パリ市における公共主導による空間デザイン事例、イギリス・ロンドンのキングスクロス駅周辺における民間主導の空間デザイン事例についても、レビューを行った。

◎吉田長裕	(IATSS 会員／大阪市立大学)	木村貴彦*	(関西福祉科学大学)
今井猛嘉	(IATSS 会員／法政大学)	塩見康博*	(立命館大学)
上條俊介	(IATSS 会員／東京大学)	椎名啓雄*	(警視庁)
北村友人	(IATSS 会員／東京大学)	瀧澤重志*	(大阪市立大学)
小竹元基	(IATSS 会員／東京大学)	藤山 拓*	(University College London)
中村彰宏	(IATSS 会員／中央大学)	松下光範*	(関西大学)
平岡敏洋	(IATSS 会員／東京大学)	松村真宏*	(大阪大学)
海老澤綾一*	(警視庁)	山口敬太*	(京都大学)
大澤 彩*	(法政大学)	葉 健人*	(大阪大学)
大須賀美恵子*	(IATSS 顧問／大阪工業大学)	Caroline Lebreton*	(法政大学)
長田哲平*	(宇都宮大学)	Marjan Hagenzieker*	(Delft University of Technology)
加登 遼*	(大阪市立大学)	Reka Solymosi*	(The University of Manchester)
鎌倉快之*	(大阪工業大学)	石附 弘**	(IATSS 評議員)
紀ノ定保礼*	(静岡理工科大学)		

アジア地域における健康起因事故防止に関する国際比較研究

近年、運転者の健康状態が交通事故の主要な危険因子であることが報告されており、わが国でも健康起因事故防止は、交通事故対策の重要な課題と認識されている。しかし、特にアジア地域において、健康起因事故対策は未だ十分に行われていない。

そこで本プロジェクトでは、2020年度の社会貢献プロジェクトで作成した、「睡眠時無呼吸症候群運転絵巻」「睡眠時無呼吸症候群と交通事故」「緑内障運転絵巻」「緑内障と交通事故」の4本の普及啓発動画について、視聴後アンケートを実施し、普及啓発効果を検証することを目的とした。

各種運輸関連団体や保険会社等の協力の下、「睡眠時無呼吸症候群運転絵巻」は3,193名、「睡眠時無呼吸症候群と交通事故」は313名、「緑内障運転絵巻」は3,061名、「緑内障と交通事故」は277名から回答を得た。アンケートの結果から、すべての動画において、9割以上の方から、動画の内容について「わ

かりやすかった」、「病気が原因となる交通事故防止の取り組みとして有用だと思う」という回答を得た。また、動画を見たことにより、9割以上の方が、「自身や身近な人が睡眠時無呼吸症候群や緑内障の疑いがある場合に医療機関への受診を勧めようと思う」と回答した。なお、普及啓発動画は全国51カ所の都道府県警察へ配布され、運転免許試験場でも活用された。

また、今年度は各動画の英語、中国語、タイ語版を作成し、ホームページに掲載した。次年度以降、この外国語版を中国やタイで配信し、同様のアンケートを実施し、無呼吸や緑内障に起因する交通事故に関する意識の違い等について国際比較を行うとともに、職業運転者を対象とした日本型の睡眠時無呼吸症候群の検診モデルやクロックチャートによる視野障害のスクリーニングについて、アジア地域における実施可能性を検討する。

◎谷川 武	(IATSS 会員／順天堂大学)	和田裕雄*	(順天堂大学)
浅野水辺	(IATSS 会員／愛媛大学)	朱 沁曄*	(順天堂大学)
大口 敬	(IATSS 会員／東京大学)	謝敷裕美*	(順天堂大学)
太田和博	(IATSS 会員／専修大学)	福島史人*	(自治医科大学附属さいたま医療センター)
岡村和子	(IATSS 会員／科学警察研究所)	金 会庆*	(安徽三联事故予防研究所)
高橋正也	(IATSS 会員／労働安全衛生総合研究所)	田島朋知**	(順天堂大学)
国松志保*	(西葛西・井上眼科病院)	崎山紀子**	(東京医療保健大学)
佐藤准子*	(順天堂大学)	大貫慧介**	(順天堂大学)
白濱龍太郎*	(順天堂大学)	安原幸生**	(国土交通省)
奥山祐輔*	(黒井産業(株))	小林照秀**	(警察庁)
友岡清秀*	(順天堂大学)	角 和晃**	(警察庁)
ミヨー ニエン アング*	(順天堂大学)	汐見友宏**	(警察庁)

中山間エリアの高校通学における交通課題の解決と教育的効果の測定

大阪府立豊中高等学校・能勢分校は、中山間エリアに位置する学校であるが、文部科学省のスーパーグローバルハイスクール (SGH) に指定されるなど、グローバルな視点からさまざまな教育活動に取り組んでおり、地域での進学希望者も多い。しかし、同校の課題として、「通学課題」が挙げられ、近年では、進学希望者が通学を理由に入学を断念するなど、入学者の減少・定員割れが続いている。現在、徒歩や路線バス、自動車での送迎といった通学手段があるが、それ以外は、自転車通学が最終的な手段となっている。ただし、自転車通学においては、安全面で中山間エリア特有の多くの課題を抱えている。

今回、高校生に電動アシスト付き自転車 (e-bike) という新たな交通手段を提供することで、交通のあり方の学習支援により、課題解決力の向上を目指すとともに、地域課題全体の解決への展開を図った。特に、2年間の研究成果に基づき、最終的な成果として、高校生たち自身による「交通安全に関する提言」をまとめ、能勢町役場に提出することを目指し

ている。この提言に基づき、今後、能勢地区における交通安全施策の改善が行われることを期待している。

今年度は、主に2つの研究を実施した。第一の研究である「交通工学的アプローチ」の研究では、交通安全ワークショップ (以下、WS) において、異なる2つの手法を用意し、自己評価による生徒の心理的リアクタンス面と客観評価による交通行動の前後比較により、交通安全WSの効果を検証し、具体的な交通安全教育・学習に関する知見を得ることを目的とした。本研究では、WSを通して自らの運転行動を可視化したことで、交通ルールの順守率が多少増加し、リスクのある場面における回避挙動の頻度が上昇した。一方、「都市計画・交通計画的アプローチ」の研究では、通学路の危険箇所を認識すると共に、自転車の視点・自動車の視点・まちづくりの視点といった、多様な視点からの問題発見および提案がなされた。

◎北村友人	(IATSS 会員/東京大学)	山崎瑛莉*	(上智大学)
大森宣暁	(IATSS 会員/宇都宮大学)	岸上祐子*	(九州大学)
土井健司	(IATSS 会員/大阪大学)	葉 健人*	(大阪大学)
馬奈木俊介	(IATSS 会員/九州大学)	内田千秋*	(大阪府立豊中高等学校能勢分校)
吉田長裕	(IATSS 会員/大阪市立大学)	矢立智也*	(大阪府豊能郡能勢町役場)
猪井博登*	(富山大学)	榎原友樹*	(能勢・豊能まちづくり)
奥山祐輔*	(黒井産業(株))	永井克治*	(能勢・豊野まちづくり)
神田直弥*	(東北公益文科大学)	菅原 亮**	(大阪府立豊中高等学校能勢分校)
柴山多佳児*	(Vienna University of Technology)	上西将司**	(大阪府立豊中高等学校能勢分校)
中井 宏*	(大阪大学)	周 純甄**	(大阪大学)
山口直範*	(大阪国際大学)	大塚優作**	(大阪大学)

日本のラウンドアバウトデータベースと事例集の整備

2009年度よりIATSSの研究調査プロジェクトでラウンドアバウト(RAB)の実用展開に着手して以来、全国各地で整備事例が増加している。これらのRABにおいては、その構造や用途、交通条件、適用場面などにおいて、さまざまな特徴を有するものが出てきているものの、それらの全体像は、必ずしも十分明らかになっていない。そこで本プロジェクトでは、信頼性の高いデータベース(DB)を整備し、日本のRAB事例の体系的整理を図ることを目的とした。これより、日本での実態評価が可能になるとともに、計画・整備の経緯や技術的検討に関わるアーカイブとして、今後のRAB整備に際して、行政上・実務上、貴重な情報を提供することができる。

2021年度は、2020年度に引き続き、各地のRABのデータを収集し、全国130カ所のRABをDBに収録した。本DBから得られる各RABの約100項目のデータに関する統計的分析により、日本のRABの特徴を定量的に把握することが可能となった。また、このRAB-DBを用いて、構造上の特徴分析、立地特性による分類、各RABの評価(構造、適用場面、景観、総合の各項目による評点)を行い、わが国のRABの整備実態を明らかにした。また、RAB-DBから30カ所程度の代表的なものを抽出し、導入経緯、まちづくり、合意形成、設計、施工、維持管理などの観点から事例を整理することにより、これらの特徴について考察した。

◎中村英樹	(IATSS 会員/名古屋大学)	高橋健一*	(三井共同建設コンサルタント(株))
鈴木弘司	(IATSS 会員/名古屋工業大学)	張 馨*	(名古屋大学)
永田潤子	(IATSS 会員/大阪市立大学)	松村みち子*	(IATSS 顧問/タウンクリエイター)
浜岡秀勝	(IATSS 会員/秋田大学)	溝田景子*	((株)建設技術研究所)
阿部義典*	(国際航業(株))	宮坂好彦*	((株)建設技術研究所)
井料美帆*	(名古屋大学)	宗広一徳*	(寒地土木研究所)
奥城 洋*	(セントラルコンサルタント(株))	吉岡慶祐*	(日本大学)
康 楠*	(Nanjing Tech University)	米山喜之*	((株)長大)
神戸信人*	((株)オリエンタルコンサルタンツ)	渡部数樹*	((株)オリエンタルコンサルタンツ)
小林 寛*	(国土技術政策総合研究所)	牧内一司**	(飯田市)
下川澄雄*	(日本大学)	近藤益生**	(飯田市)
高瀬達夫*	(信州大学)		

電動モビリティ混在下の安全快適な道路環境整備に関する研究

電動キックボード、座り乗りの超小型モビリティなど、さまざまな電動モビリティが開発され、安全快適な交通社会を実現するための次世代モビリティとしての普及が期待されている。しかし、わが国では新たなモビリティに対する受容性、既存モビリティとの混在により生じ得る歩道・車道上の安全性への問題、法的な整備や通行空間の議論など、検討すべき課題が存在する。

本研究では、国内外の調査により、上記モビリティをわが国に導入する際にクリアすべき障壁を明らかにする。

2年目の活動として、既存モビリティとの混在実験を通じて、電動キックボードと他者とのインタラクションや利用者不安感の関係を分析した。また、海外の文献調査により、電動キックボードを取り巻

く法的課題を整理しつつ、電動モビリティに関する利用者の受容性や自治体の課題認識を分析した。その結果、電動キックボードの希望走行位置は、普段の自転車の走行位置に影響を受けること、普及条件としては、専用走行空間の整備、電動キックボードに対する周辺自動車・歩行者の交通ルールの整備が必要といった知見を得た。また、歩道や車道では、1~1.5m程度の離隔距離があることで、電動キックボード混在時の不安感が低くなること等がわかった。

今後は、2年間の検討成果をもとに、海外研究者とワークショップを行うことや、各種電動モビリティ混在下の歩道、車道空間において、複数主体が安心して利用できる歩道および車道空間整備のあり方についての検討を進める。

◎鈴木弘司 (IATSS 会員/名古屋工業大学)
 小川和久 (IATSS 会員/東北工業大学)
 小竹元基 (IATSS 会員/東京大学)
 関根太郎 (IATSS 会員/日本大学)
 猪井博登* (富山大学)
 井料美帆* (名古屋大学)
 柴山多佳見* (Vienna University of Technology)
 鈴木一史* (群馬工業高等専門学校)

鈴木立人* (University College London)
 高田実宗* (駒澤大学)
 吉岡慶祐* (日本大学)
 Wael Alhajyaseen* (Qatar University)
 井澤雄介** (警察庁)
 森下春奈** (警察庁)
 伊藤大貴** (名古屋工業大学)

都市の文化的創造的機能を支える公共交通のあり方についての提言

未来の都市のあり方を考えるに当たり、都市はサステナブルかつクリエイティブであるべきで、文化的かつ創造的な機能・活動の集積の重要性は大きい。派生する交通需要の受け皿、かつそれらを誘引・誘導する仕掛けとしての公共交通の役割を明らかにすることを目的に、3年間取り組んできた活動成果について、書籍にまとめて出版し、シンポジウムを併せて開催することで、社会貢献に資することを目的とする。

書籍については、ウェブアンケートの結果と考察（第1章）、東京の歴史を軸とした座談会（第2章）、劇場立地等都市計画的な視点での考察（第3章）を、3年間のプロジェクトで実施した、ロンドン、ニューヨーク、ウィーンへの視察結果（第4章）、都市デザインと都市交通のつながりを軸とした座談会（第

5章）、ケーススタディとして取り組んだ富山についての考察と提言（第6章）、全体とりまとめの座談会（第7章）、そして最終的な提言（第8章）で構成した。

シンポジウムについては、東京と、ケーススタディ都市の富山での2回開催とし、東京では、書籍タイトルの中の余韻と都市の議論を中心に、富山では、プロジェクト内で実施したワークショップ参加者を招待したパネルディスカッションで、富山への期待を中心とした議論ができるよう設定し、いずれもオンライン開催（関係者のみ対面参加）で公開で実施した。

以上の活動を通じて、3年間の研究プロジェクト成果の社会貢献は十分に達成できた。

◎中村文彦	(IATSS 会員／東京大学)	橋本鋼太郎*	(IATSS 顧問／(一財)首都高速道路技術センター)
紀伊雅敦	(IATSS 会員／香川大学)	松村みち子*	(IATSS 顧問／タウンクリエイター)
後藤孝夫	(IATSS 会員／中央大学)	生島 翔*	((株)生島企画室)
斎藤 誠	(IATSS 会員／東京大学)	猪井博登*	(富山大学)
土井健司	(IATSS 会員／大阪大学)	川端祐一郎*	(京都大学)
藤井 聡	(IATSS 会員／京都大学)	出口 敦*	(東京大学)
馬奈木俊介	(IATSS 会員／九州大学)	三浦詩乃*	(東京大学)
吉田長裕	(IATSS 会員／大阪市立大学)	吉見俊哉*	(東京大学)
白石真澄*	(IATSS 顧問／関西大学)		

ASEAN 地域での速度認知に着目した二輪運転者の危険予測教育プログラムの開発

本社会貢献プロジェクトでは、過去3カ年のプロジェクト（1841A、1941B、2041C）の成果を踏まえ、速度認知に着目した二輪運転者への危険予測に関する教育プログラムのツールを開発した。過去のプロジェクトでは、ASEAN 地域において二輪車メーカーが主導し、行政・地域・家庭を包摂する「交通安全文化共創モデル」の必要性和社会的意義を明らかにした。この共創モデルは、ASEAN 地域の交通安全対策の課題であるエンフォースメント（取り締り）の不足を補う役割をも果たしている一方で、エビデンスに基づく事故実態の把握、および速度超過の抑制・運転者の認知については、十分に対応できていないことが浮き彫りにされた。

そこで、本プロジェクトにおいては、ドローン空撮と AI によるモーション・パターン学習に基づき、二輪事故の多発交差点での動的なリスク評価を実施

し、特に危険を予測すべき状況の可視化とダッシュボード化を行った。加えて、事故リスクを低減させる重要な要素の一つである危険予測のうち、認知に焦点を当てたアニメを用いた安全運転啓発ビデオを制作した。このビデオは、速度認知のエラーを解説し、さまざまな運転状況における注意資源の配分を可視化することで、正確な認知のためのポイントをわかりやすく解説している。さらに、現地の若者を模したアニメキャラクターと、鈴鹿サーキット交通安全教育センターの協力の下、撮影した実際の運転映像を用い、動画への関心を高める工夫を行うとともに、交通事故が当事者だけでなく、家族や知人、社会へも影響を与えることを強調し、安全運転への共感を促す仕掛けを施した。2021 年度は、以上のような危険予測教育に関わるツールおよびコンテンツを開発した。

◎土井健司	(IATSS 会員/大阪大学)	長谷川孝明*	(IATSS 顧問/埼玉大学)
上條俊介	(IATSS 会員/東京大学)	福田 敦*	(IATSS 顧問/日本大学)
紀伊雅教	(IATSS 会員/香川大学)	稲垣具志*	(東京都市大学)
北村友人	(IATSS 会員/東京大学)	猪井博登*	(富山大学)
関根太郎	(IATSS 会員/日本大学)	山口直範*	(大阪国際大学)
高橋正也	(IATSS 会員/労働安全衛生総合研究所)	葉 健人*	(大阪大学)
馬奈木俊介	(IATSS 会員/九州大学)	周 純甄*	(大阪大学)
吉田長裕	(IATSS 会員/大阪市立大学)	Nicolas Saunier*	(Polytechnique Montreal)
井上勇一*	(IATSS 顧問)	太田洋平**	(本田技研工業(株))
長谷川彰*	(IATSS 顧問)		

青少年に対する効果的な交通安全教育の普及促進活動

児童生徒主体の教育活動が、より一層社会に普及し定着することを目的とする。そのため、次の活動を展開し、社会実装の実現を試行する。

- ①褒賞助成制度を活用した普及促進：児童生徒が主体となった教育活動の継続を支援するため、将来的に発展が見込める活動を表彰する。
- ②社会実装を志向した継続的活動を支援する仕組み：教材の作成支援、指導・学習方法に関するサポートを提供する。

①については、高知県A小学校での通学路に関する調査分析と地域への発信の活動、および「みやぎ高校生サイクルサミット2021」での実践報告と生徒間の意見交流の活動に貢献した児童生徒および若手教員を交通安全マイスターとして表彰することとした。

②については、交通安全ポータルサイトを制作し、教材提供など、学校現場で活用されるコンテンツの充実化を目指した。

◎小川和久	(IATSS 会員／東北工業大学)
北村友人	(IATSS 会員／東京大学)
鈴木弘司	(IATSS 会員／名古屋工業大学)
岡村和子	(IATSS 会員／科学警察研究所)
加藤麻樹*	(早稲田大学)
神田直弥*	(東北公益文科大学)
菊池 輝*	(東北工業大学)
中井 宏*	(大阪大学)
奥山祐輔*	(黒井産業(株))
名古屋武一*	((株)ムジコ・クリエイト)
平田大輔*	((株)ムジコ・クリエイト)
吉門直子*	(高知県土佐市立蓮池小学校)
森本晋也*	(文部科学省)
松村みちこ*	(IATSS 顧問／タウンクリエイター)
Wael Alhajyaseen*	(Qatar University)
小嶋 文*	(埼玉大学)